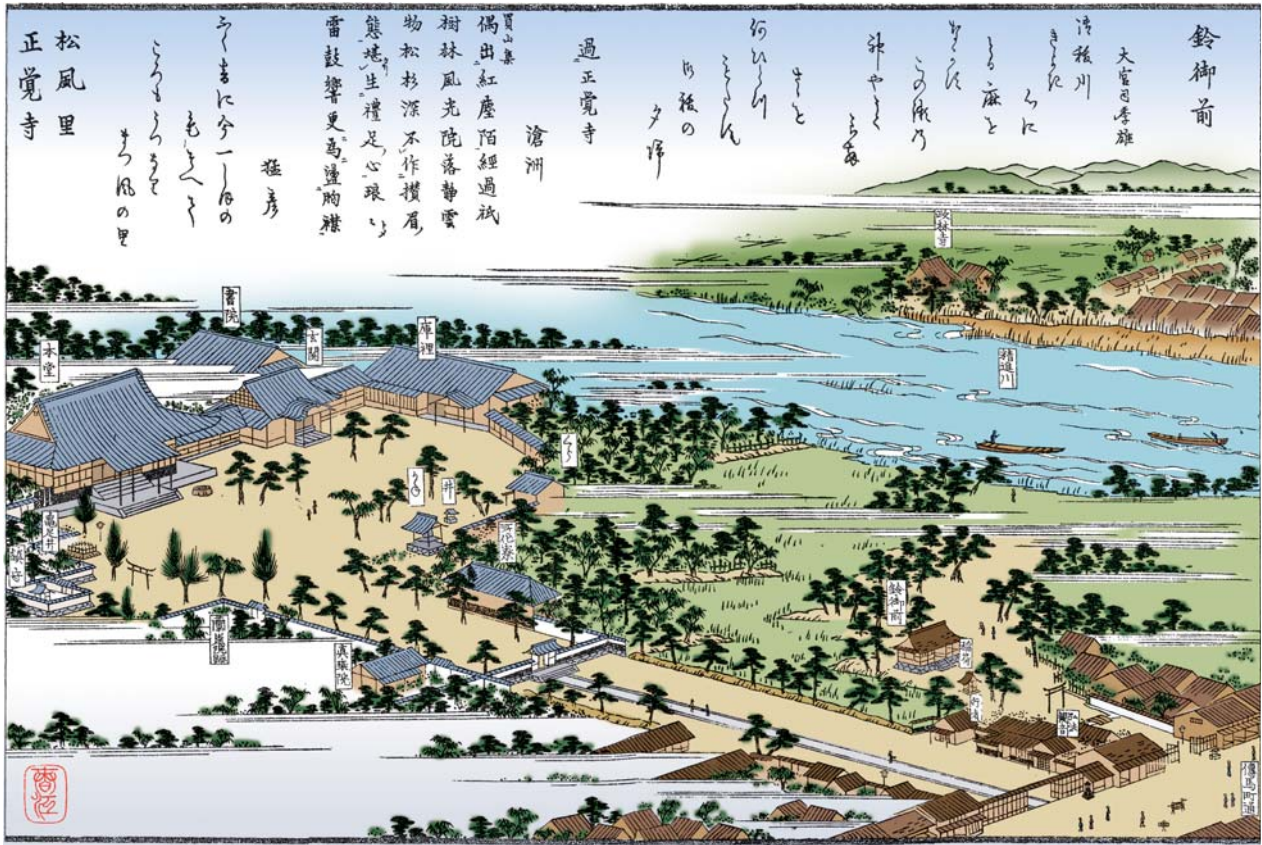
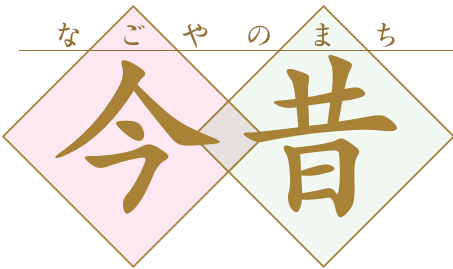


東海道熱田宿前のみそぎの場



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれた江戸時代の鈴御前・正覚寺その東を流れる精進川が描かれたもので、この一帯は松風里といわれ歌に多く詠まれた名所です。鈴之御前社は、熱田神宮の境外末社で、天鈿女命が祀られています。鈴之御前社の謂れは、精進川がこの宮の傍らを流れており、東海道を東から熱田宿に入るとき、この川で身を清め、「鈴のお破い」を受けていたことから、その禊の場所を「スズのミヤ」「レイのミヤ」といわれています。

正覚寺は、1434年融伝乗上人の創建され、本尊は、木造阿弥陀如来像です。このほかに宝物が多く千余年前の浄土曼荼羅などの古書古画が所蔵されています。

精進川は、名古屋中央丘陵部などから流出する水を集め、熱田東町三本松より伝馬町姥堂の東脇を経て熱田湾に注いでいました。川幅は極めて狭く屈曲が多く氾濫することがしばしばあり、この対策と水運のために水路開削が計画され、明治43年に長年の懸案であった精進川の改修が完成し、翌年には新堀川と変更されました。なお、鈴の御前社付近の新堀川は、改修前の精進川のやや東に開削されました。

現在、鈴之御前社、正覚寺は国道1号などを隔て位置し、付近には名鉄常滑線、鉄筋コンクリートのビルも建設され、名所図会作成時の様子をしのぶことはできません。



鈴之御前社



正覚寺



鈴之御前社前の旧東海道

◆関連資料 ※ ()内はまちづくりライブラリーの請求記号です

「尾張名所図会 後編四」岡田啓／編 愛知県郷土資料刊行会(Sc-A)

「史跡熱田」名古屋泰文堂(SCA)

「熱田区誌」熱田区制50周年記念誌編集部／編 熱田区制50周年記念事業実行委員会(Sc-A)

「名古屋の史跡と文化財」名古屋市教育委員会／編 (SCナ)

「目でみる愛知の江戸時代上」国書刊行会／編 (Scコ)

「名古屋都市計画史上巻」名古屋市建設局／編 (2B11-57)